

国語教育相談室

小学校

no.

77

光村図書



特集 継続したい日常学習

わたし
ことば
「いらっしやいませ こんにちは」
という独り言 鴻上尚史

教材
研究
「書くこと」
説明文からつながる

書写
ポップを
作ろう！

平成24年度用教科書
訂正箇所のお知らせ

悩み
解決
「書く」「話す・聞く」
実態に合わせた指導

光村図書の書籍

図書館が劇的に変わる



ISBN978-4-89528-475-2



増刷
決定

読書力アップ! 学校図書館のつくり方
赤木かん子 著/B5/128頁/定価2,520円

ISBN978-4-89528-668-8



好評
発売中

読書力アップ! 学校図書館のつかい方
赤木かん子 著/B5/128頁/定価2,520円



光村図書

小学校 国語教育相談室 通巻No.148 2012(平成24)年9月12日発行 定価126円(税込)
発行人=常田 寛 発行所=光村図書出版株式会社 東京都品川区上大崎 2-19-9 〒141-8675 電話 03-3493-2111
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp> E-mail:koho@mitsumura-tosho.co.jp
印刷所=株式会社 加藤文明社 デザイン=mint grafix

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。詳しくは、光村図書ホームページ「光村チャンネル」をご覧ください。
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp> 広報誌の配送停止をご希望の方は、光村図書広報部までご連絡ください。



作家・劇作家
鴻上尚史
こうかみしやうじ

「いらっしゃいませ こんにちは」 という独り言

マニュアル言葉に対して、昔は少しは抵抗があったように思う。相手の目も見ず、話しかけようという意識もなく、ただ、マニュアルで「誰かが『いらっしゃいませ こんにちは』と声をかけたら、あなたがどこにしようと、何をしよう、その言葉を繰り返して下さい」という、「言葉と人間」の関係をまったく無視した、暴力的な指示を無反省に伝え、そしてそれを実行する人は少なかつたように思う。

この前、あるレストランのチェーン店でカレーを注文したら、テーブルに置きながら「ごゆっくりどうぞ」と店員さんは言った。その瞬間、店内にいた8人ほどの店員は、テーブルを拭いている人も、別な客から注文を取っている人も同時に「ごゆっくりどうぞ」と叫んだ。……ごゆっくりできるわけがない。

他の注文を取りながら「ごゆっくりどうぞ」とは人

間には言えない。一分間に十人以上やって来るお客に対して、いちいち「いらっしゃいませ こんにちは」とは言えない。この言葉は、十分間以上お客さんが来なくて、やっと来てくれた時に「いらっしゃいませ」だけでは足りないと感じて、「こんにちは」と付け足す言葉だ。（それでも「いらっしゃいませ こんにちは」は劇作家の視点から見れば、じつに人工の言語で、つまりは説明セリフで、感情が溢れた言葉ではないと感じる）

と書きながら、マニュアル言葉がどんどん増えているのは、マニュアル言葉を使うことが楽だからだ。難しい人間関係や込み入った場の空気を読むことを、マニュアル言葉は一気に無効にすることができる。

「ことば」の研究会なのに、「ただいまご紹介にあずかりました」です。僭越ではございますが」という、伝統のマニュアル言葉を使って平気な人はたくさんいる。「させていただく」という待遇表現を連発する人もいる。そして、聞いている方も、「あ、今は無内容の接客マニュアルを話しているから聞かなくていい」と判断している。

マニュアル言葉を使って安心することは、言葉の自殺だろうと僕は思っている。



1958年、愛媛県出身。早稲田大学法学部卒。1981年に劇団「第三舞台」を結成。以降、作・演出を手がける。「スナフキンの手紙」(94)で岸田國士戯曲賞を受賞。現在は、[KOKAMI@network]、若手俳優を集めて旗揚げした「虚構の劇団」での作・演出を中心としている。近作に音楽劇「リンドー リンダ」がある。著書に『演技と演出のレッスン』（白水社）、「空気」と「世間」』（講談社）など。桐朋学園芸術短期大学教授。

CONTENTS

わたしとことば 「いらっしゃいませ こんにちは」という独り言 ——— 鴻上尚史

特集 02 継続したい日常学習

提 言 日頃から取り組ませておきたい学習 ——— 稲田八穂

事例紹介 わたしの工夫 ——— 遠藤綾子
岡田博元
嶋崎一枝
高崎智志

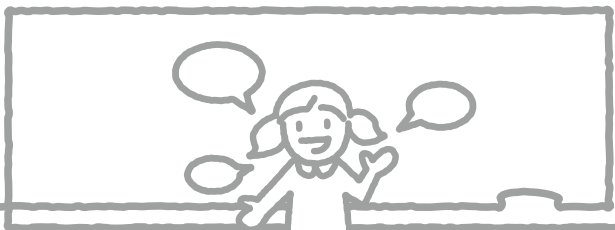
その悩み、解決
します！ 2 「書く」「話す・聞く」教材の実態に合わせた指導 ——— 松山美重子・邑上裕子

教材研究のススメ 4 16 説明文からつながる「書くこと」 ——— 興水かおり

書写の時間を
考えよう 11 20 ポップを作ろう！一用紙に対する文字の大きさと配列の工夫 ——— 新しい指導を考える会

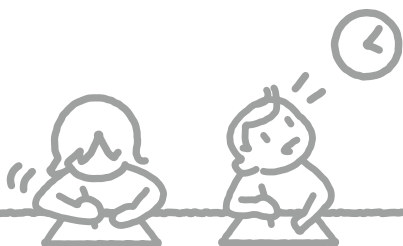
24 平成24年度用教科書（下巻） 訂正箇所のお知らせ

継続したい 日常学習



音読、漢字学習、読書、スピーチ、短い文章を折に触れて書くこと、言葉を集めることなど、知識や技能の定着のために、日頃から継続的に子どもたちに取り組ませておきたい学習があります。

具体的にどのような時間を使って、どのように取り組ませるとよいのか、稲田八穂先生のご提言と四人の先生方の事例から探っていきます。



提言

日頃から取り組ませておきたい学習

筑紫女学園大学 准教授
稲田八穂

日常学習を もっと有効に活用しましょう

日常学習は多くの学級で行われている活動です。しかし、年度当初は子どもたちと話し合って決めた意欲的な活動でも、忙しさに追われて子どもまかせになったり、形骸化したりしていることはないでしょうか。言語活動の充実、配当時間の減少など、国語科の指導に頭を悩ませることがあるなか、この日常学習を有効に活用することを提案します。一日五分の活動は、二週間では一単位時間分になります。数分でも意識的に継続すれば大きな力になるはずです。

日常学習が行われる時間としては、朝の会、帰りの会、あるいは一時間目の前の特設時間、任意の時間などが挙げられます。内容は、音読・暗唱、一分間スピーチ、読書、読み聞かせ、漢字の練習、短作文などさまざまです。「継続は力」です。これらを国語科の指導に位置づけ、教科書教材や

学習と関連させて有効に指導することにより確かな力になると考えます。

音読や暗唱を通して

学校を訪問すると、あちこちの学級から音読の声が聞こえてきます。音読・暗唱は、だれでも参加できるため、最も継続にふさわしい活動といえます。教科書「二年上「ふきのとう」」では聞き手を意識した音読の方法、三年上「いつも気をつけよう」では姿勢、発音・発声、四年上「いつも気をつけよう」では抑揚、強調、速さ、間に気をつけて音読することが示されています。これらを日常の音読活動の指導のポイントとして取り上げると、活用につながります。

現在学習中の教材文にとどまらず、各学年の付録にある文学的な文章を使うのもよいでしょう。「聞いて楽しもう」の系列では民話や神話が、三年下の付録には「百人一首」が掲載されています。子ども自ら

が読み方を工夫できるのではないのでしょうか。また、独自の音読集を作成することもお勧めです。先生が作ってくれた音読集なら、子どもたちにも愛着が生まれます。

福岡県北九州市では、全児童に音読・暗唱ブック「ひまわり」を配布しています。発声や読み方が分かりやすく説明されており、自分一人でも取り組めるため、家庭でも音読をする子の姿が見られました。古文や漢詩なども取り入れられていますので、国語科の学習でも活用できます。「ひまわり」を活用した音読・暗唱により、子どもたちの言葉の力が各領域において向上したという研究成果も報告されています（元北九州市教育センター研究員・岩倉智子教諭による）。

読み方としては、「一斉読み」だけでなく、「センテンス読み」「二人読み」「役割読み」などを取り入れると、新鮮な気持ちで音読・暗唱ができます。共同して読み合うことで、コミュニケーション力も高まるでしょう。



継続したい日常学習

スピーチ活動を通して

スピーチは、音読・暗唱と並び、多く取り組まれている活動の一つです。学級経営という目的のもと、行っている方も多いでしょう。

「話す・聞く」力は教科書教材だけではなく、身近なものからでも。習得も活用も短時間では難しいからです。ここに、日常学習の果たす役割があります。スピーチ活動については、教科書三年上「つづけてみよう」に話題や話し方が示されているので、学年初めに指導して継続すると効果的です。四年上「つづけてみよう」の「ちよつと相談」も、関心をもって取り組める話題です。もちろん、教科書教材の「話すこと・聞くこと」の指導と関連させることも大切です。教科書教材の導入、学習後の習得・活用、場として意識的に指導しましょう。

四年上「物事や考えをつなぐ言葉」を活用した「サイコロトーク」という活動も考えられます。自分のスピーチの後、接続詞の書かれたサイコロを振り、出た接続詞を使ってスピーチを続けます。自分があらかじめ考えていた話とは違う終わり方になるおもしろさがあり、その場で考える力も身につきます。

まず。読み聞かせてもらった後のお互いの思いをシェア（共有）するのです。国語の時間には、なかなか自由な思いを言えない子どもも、学習ではない気楽さから自分の感想が話せます。個の思いをみんなで認め、読むことの自由を実感できます。

なかには、集中して聞けない子もいるかもしれません。そんな場合には、アニメーション的な要素のあるクイズを取り入れるのもよいでしょう。国語で「じんぶつ」について学習した後、読み聞かせの本に登場する人物の持ち物クイズをする、「あらすじ」



「読みあい」の様子。朝の10分間読書や授業のちょっとした空き時間を利用して取り組むことができる。



出た目に書かれた接続詞を使って、適切なつなぎ方になるように、続くスピーチの内容を考える。

スピーチというと独話を思い浮かべますが、簡単な話題を決め、対談や鼎談を取り入れても楽しいものです。一人では話にくい子どもたちにとっては安心して話せる場となるでしょう。

読書を通して

今や「十分間読書」は全国的に広がりました。自分の机の横に読みたい本を掲げている姿を見かけることも珍しくありません。読書が日常化してきていることの表れでしょう。

教科書二・四年下巻および五、六年にある「この本、読もうー本は友達」を読書に有効に活用することができます。子どもたちはまるで図書館や書店にいるかのよう

を学習した後、バラバラにしたキーセンテンスを並べ替えるなどさまざまな工夫できます。楽しい活動を通して、読みの学習で学んだことを習得させたいものです。

書くことを通じて

国語を苦手とする子どもの多くは作文が嫌いだと言えます。理由はさまざまですが、まず書き慣れていないことが挙げられます。国語の時間に書くものはかなりの分量です。苦手な子にとってはそれがネックになっているのではないのでしょうか。短文作文は、短い文章で書き慣れることができます。有効な手立てとなります。教科書各学年「季節の言葉」を使って短作文を書いたり、六年「続けてみよう」の「読書日記」や「今日の出来事」を継続したりすることも可能です。

また、「今日は取材だけしてみよう」として、思いつくことをマッピングしたり、「主題を書こう」として、言いたいことだけを書いたりするといったように、「書くこと」の学習過程に分けて取り組むのも一つの方法です。

一人では書けない子への手立てとしては、筆談で対話をする「鉛筆対談」が挙げられ

にこのページを見つめ、短い紹介文を読んで心ひかれる本を手にとろうと思います。これらの本を学校図書館に数冊そろえれば、書棚から取り出すように自分の読みたい本を主体的に選ぶことができるでしょう。ブックリストを作り、読書記録を残すのもよいかもしれません。六年「続けてみよう」の「読書日記」と関連させることもできます。国語科の学習での並行読書をこの時間に充てることも考えたいものです。

異学年どうして読書をする機会も増えています。上級生が下級生に読み聞かせをすることでほのぼのとした交流も生まれます。ぜひ、下級生にも読む経験をさせましょう。いつも読んでもらっている側から、自分も読もうという意欲が生まれます。選んだ本を持ち寄り、二人で対話しながら読むという、児童文学作家・村中李衣氏の提唱する「読みあい」を取り入れてみるのもよいでしょう。自分が本を選んだ理由や好きな場面について対話しながら読むことができます。読書を通して友達とつながることができるはずです。

また、教師や地域の方による読み聞かせも増えてきました。この時間を使って、子どもたちの思いや言葉を拓くために、「シェアリングタイム」を設けることも考えられます。

いくつか事例を挙げながら、日常学習を有効に活用することについて述べました。大切なことは、「どんな力をつけようとしているのか」という目的をもって取り組むことです。そしてその力が生きる教材を見極め、位置づけていくことです。単一の活動や教材で子どもたちの言葉の力は高められるものではありません。らせん的に繰り返し指導していくことが大切なのです。



稲田八穂

京都市生まれ。筑紫女学大学人間科学部准教授。京都市・北九州市内の公立小学校教諭を経て、現職。主な共著書に『豊かな言語活動が拓く国語単元学習の創造3 小学校低学年編』（東洋館出版社）などがある。



継続したい日常学習

事例紹介

わたしの工夫

具体的にはどのような取り組みが考えられるのか、
四人の先生方にうかがった事例をトピックごとにご紹介します。

漢字の定着のために

事例 1

横浜雙葉小学校 教諭
遠藤綾子

遠藤綾子

学校全体の取り組みです。本校では、五十年ほど前から、教科書教材とは独立した形で、当該学年の配当漢字を一日二文字ずつ学習していく活動を取り入れています。三年までは国語の毎授業、初めの十五分ほどを使い、字形・筆順・読み・意味・用例などについて確認するようにします（一年では、平仮名片仮名から学習）。黒板で、まず目を意識した確認を行い、みんなで空書きをして、字形と筆順を押さえるようにしています。

また、合わせて、その漢字を使った言葉を集めることを大切にしています。児童に

は、「言葉」として漢字に出会い、語彙を豊かにしていってもらいたいからです（詳細はP9参照）。
徐々に自主的に学習できるように意識して指導し、四年からは家庭学習に移行させていきます。家庭で、一日二文字ずつ漢字の学習をさせ、国語の授業では軽く確認する程度にします。

基本的に、教科書の漢字提出よりも早い段階で漢字を習得することになるため、「使いこなす」ための時間をより多く保証することができま。

また、三、四年の教科書での辞書の学習に合わせ、漢字学習の中でも国語辞典・漢字辞典を使わせるため、辞書を引く習慣が自然と身につきます。

学校全体での取り組みなので、学年や指導者が変わっても継続していけます。

事例 2

お茶の水女子大学附属小学校 教諭
岡田博元

岡田博元

週に一度、国語の時間を使って漢字の学習をするようにしています。教科書での提出順に合わせて学習していく順を決め、五、六字程度を取り上げた、ノートに貼れる大きさのワークシートをあらかじめ用意しておきます。週の初めに児童に配布しておき、その週の漢字の時間までに家庭で学習しておくように伝えます。

児童は、家庭学習として、自分なりに必要な情報を入れた漢字ノートで、漢字学習を進めます。週に一度の漢字の時間では、担当の児童が前に出て、その週の漢字について、読みや意味、その漢字を使った言葉や文、豆知識など、自分が学習してきたことを発表します。聞いている児童は、自分の漢字ノートにない情報を書き足します。クラスの友達の漢字ノートそのものが、児童の学習材となっています。

漢字を使った短文……

漢字を使った言葉とその意味……

同じ部分をもつ漢字……

漢字についての豆知識……

書くときの注意点……

漢字を構成する部分とその意味……

漢字の意味……

漢字ノートの例。その週に学習する漢字のワークシートを貼り、次のページ以降、自分なりに学習を進めていく。

事例 3

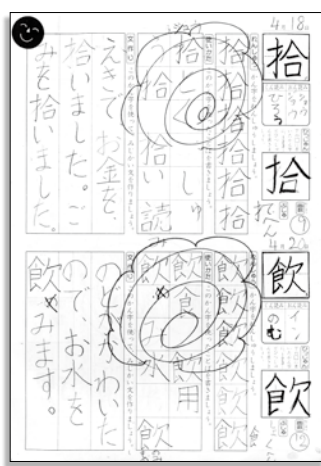
秋田市立豊岩小学校 教諭
嶋崎一枝

嶋崎一枝

日々の漢字学習に加え、校長先生が毎月の全校集会の中で出してくれる「お題」を使って、漢字を使った言葉集めに取り組ませています。

授業中、課題が早く終わったときなどに、「星」を使った言葉」などの「お題」に沿って、辞書を使いながら、児童は言葉を探していきます。見つかったら、全体で確認しつつ、その言葉を書いた短冊を掲示板に貼っていきます。

児童は競って言葉を見つけようとするので、漢字の使い方や意味が自然と身につけていきます。



現在は主に市販の漢字ドリルを使っているが、以前は、上のように漢字ノートを使って学習していた。



4年以上では、家庭で学習してきた漢字について、教師の代わりに当番の児童が説明をするクラスもある。

事例 1

横浜市立瀬ヶ崎小学校 教諭
高崎智志

児童の語彙を広げていくためには、日頃から、言葉集めの視点をもって学習に取り組むことが重要だと考えています。

そのために、漢字学習や「書くこと」の学習の中で使ったり出会ったりした言葉を記録させていくようにしています。意味や例文とともに、カードに言葉を記録し、ノートの後ろのページから貼っていくようにします。次に何か書くときには、ノートの後ろのページを振り返り、自分が前に使った言葉や知っている言葉を思い出すことができます。

それから、感想や自分の気持ちを表すときに使えるような表現を教師のほうで一覧にしておき、それをノートに貼っておくようにもさせています。教科書の付録にある、「思ったことや感じたことを表す言葉」(三年上・四年上)や「評価・判断や、感情を

表す言葉」(五年・六年)なども活用できるかもしれません。

書きたい思いはあるのに、どう表現していいか分からないから書けないという子は少なくありません。その都度、記録させたり、見せたりすることで、そのときの気持ちにぴったりの言葉を見つけられるといいなという思いがあります。

また、できるかぎり新しい言葉や表現を使うことを意識させることで、児童の語彙は格段に広がっていくことと思います。



＜作品を紹介するときに、自分の気持ちをうまく表現する言葉＞			
読んだ書との自分の気持ち	作者・著者に対して	作品に対して	他の作品と比べて
1 おどろく	かえりこぼく	明るい	新しい
2 びっくりする	感動する	温かい	真新しい
3 笑える	期待どおり	きれいな	好評
4 笑いこける	個性的	美しい	人気がある
5 気分に染める	才能あふれる	うまい	深みがある
6 気分に染める		ほほえましい	傑作(はっさく)
7 気晴らしになる		わかりやすい	大作
8 感動する		面白い	力作
9 感動する		笑える	注目の
10 心を動かす		笑いこける	価値ある
11 心を揺るがす		大爆笑	高級
12 心を引きつける		爆笑	優れた
13 心を揺るがす		おもしろい	代表作
14 うれしい気持ちになる		おもしろみがある	優秀
15 気持ちがよい		おもしろい	最高のでき
16 元気が出る		おもしろい	一級品
17 心温まる		気分に染める	Aクラス
18 心が落ちる		気分に染める	究極の
19 心がほぐれる		強い	
20 心が安らぐ		勢いがある	
21 心地よい		あつと言わせる	
22 心を動かす		親しみがわく	
23 快い		すてき	
24 すがすがしい		すばらしい	
25 満足する		魅力的	
26 幸福を感じる		ほれほれする	
27 快適な時間を過ごす		人気がある	
28 お気に入り		ほめる	
29 好き		役立つ	
30 好き		リッパ	
31 大好き		よい	
32 夢中になる		よい	
33 (こんな人・時に)必要		しれた作品	
34 必読		味わいのある	
35 感動する		いきいきと動く	
36 親しみがわく		いらぬ量か	
37 味わい深い		奥深い	
38 名作		切れ味のよい	
39 魅力的		心を動かす	
40 読み通したくなる		心を揺るがす	
41 愛読		心を揺るがす	
42 必読		必読	
43 必読		必読	
44 必読		必読	
45 必読		必読	

『ことばんぐ』カード		No.
【言葉】	楽観的な	ら。かんてきな
【意味】	・ものごとが、かんたんにうまくいくと思うこと ・よくよく、明るい見通しをもつこと	
【例文】	ぼくは失敗はあまりないから、 母からよく楽観的な人といわれる。	

使ったり新たに知ったりした言葉を記録するカード。なくさないよう、ノートに貼るようにしていく。

感想や気持ちを表す表現の一覧。適切なものが探しやすいよう、グループ分けするとよい。使った言葉をチェックする欄を設けてもよい。

事例 2

秋田市立豊岩小学校 教諭
嶋崎一枝

ことわざや慣用句、故事成語といった言葉や言い回しは、ふだんから意識して使うようにしていなければなかなか身につけません。児童がこういった言葉を使う場を設けるため、これらを使った文章を書くという活動を取り入れるようにしています。

具体的には、国語の授業でことわざについて学習したら、自分の好きなことわざを

使って、生活や体験についての文章を書くことを単元的に取り入れるというものです。百字程度を目安とし、長い文章は要求しません。短くてもいいので、続けることが大切だと考えます。

用紙を渡しておいて、書いたら廊下に貼っていくようにすれば、自分が書いたものがたまっていくのが目に見えるし、使えるようになった言葉が増えていくのも実感できます。学年が変わっても、同じように、その学年段階に応じて、慣用句、故事成語などに内容を変えて、活動を継続することができます。

児童には、これらの言葉や言い回しの、意味や使い方だけでなく、おもしろさも、自分の体験と重ねて感じ取ってほしいと思っています。

もちろん、これらの活動に加え、学習した言葉や言い回しを、教師が積極的に日常の授業や生活の中で使っていくことは欠かせません。教師の使う言葉が、児童が語彙を広げる刺激となるよう、日々の言葉の選び方には気を配っています。

事例 3

横浜雙葉小学校 教諭
遠藤綾子

前項でも触れましたが(P6)、本校では漢字学習を「語彙の学習」と捉えています。そのため、漢字学習と連動させた、言葉集めにも力を入れるようにしています。

家庭学習として、漢字を書く練習をするときには、その漢字を使った言葉を自分で探し、書いていくようにします。字形や筆順を確認するとともに、言葉の意味に目を向け、語彙を広げることに結び付けます。

光	い	光	ん	ぶ	元
光	け	光	学	光	し
光	い	た	光	バ	い
光	あ	く	の	ス	光
光	み	さ	が	中	や
光	よ	っ	あ	光	光
光	う	ゆ	る	え	虫

ことばあつめ 四月 九日

2年生用の言葉集めのためのワークシート。漢字の学習と連動させながら、語彙を拡充させる。

事例 1

お茶の水女子大学附属小学校 教諭

岡田博元

一年生を対象に、毎朝、朝の会の時間を使って「おはなし」という、簡単なスピークの活動を行っています。

入学の一週間後ぐらいから始め、毎日話したいことがある子が話すというルールにしています。聞いている子どもたちには必ず質問をさせるようにします。そして、話し手の意図を引き出すようなよい質問が出たときには、教師が取り上げて褒めるようにしています。

この活動のときに工夫しているのが座り方の形態です。図のように、話し手と聞き手の位置関係が、円周上にあるような形態をとります。話し手が前に立って、聞き手は全員それに向かつて座るというレクチャーのような形態だと、この時期の子どもたちはどうしても集中力がもたず、他に向いてしまいます。円状に座ると、お

事例 2

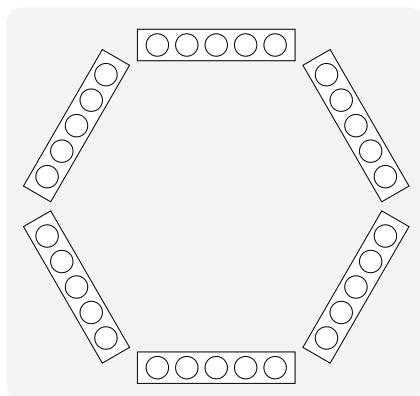
横浜市立瀬ヶ崎小学校 教諭

高崎智志

国語で学習したことを定着させる意味で行っていることがあります。例えば、教科書四年上「よりよい学級会をしよう」で学んだ「話し合いのしかた」についてご紹介しましょう。

ここで学んだ話し合いのしかたがしっかりと身につくように、その後の学校生活の中での学級会でも積極的に活用していくよう意識づける必要があります。日々の学級会、各学年級の代表者が集まる「代表委員会」で話し合うときには、学習したことを思い出させるために、教科書の学習の手引きにある「たいせつ」コーナーの内容をより具体的ににしたワークシートを作り、児童に持たせるようにします。

シートには、話したり質問したりするときの、具体的な話型の例を載せておくようにします。発言するときには、これを見て、話し方を確かめながら話すことができます。自分が学習の中で得た言葉なのだから、いつでも取り出して使えるようになってもら



「おはなし」の形態。ベンチに5人ずつ座り、自分の番が来たら、その場で立って話をする。

互いの顔が見えやすく、目線を交わすことができるので、「共感的に聞く」態度も育っていくように思います。

話をみんなで共有する意識が高まるため質問についても、話し手本人が答えるだけではなく、周りにいる聞き手の子が代わりに答えたり補足してあげたりすることもあります。

慣れてきたら、話したことを取り上げ口頭作文から作文へとつなげていく指導を展開していくのもよいと考えています。



いたいものです。

学級会では、話し合いの後、話し合いのしかたに関する振り返りの時間を設けるようにしています。自分の活動を振り返ることとで、話し方の改善や次の活用に結び付けます。

また、シートには、友達が話し合いの中で使っていた話し方・質問のしかたで、「いいな」と思ったものを書き留めておけるようにもしています。よりいっそう、友達の話に注意深く聞く姿が見られるようになりました。

一年間かけて、あらゆる機会を無駄にせず、児童の話し合いの力を定着させていければと思います。

[illegible]

話し合いのときに使える話型をまとめたワークシート。横に、友達の話し方を書き留める欄を設けておくとよい。

〈ある日の「おはなし」の例〉

話し手 ……この前、ライオンズ対ホークスの試合を見に行きました。三対三で引き分けでした。楽しかったです。

聞き手A:…なんの試合ですか。

聞き手B：野球の試合だよ。

聞き手C：ライオンズは、ライオンのマー
クのチームだよ。

聞き手D:…どちらを応援していたんですか。

話し手：僕は、ライオンズを応援していました。



実際の教室の様子。教室前方を広く空け、ベンチを並べる。

その悩み、
解決します！

2

「書く」「話す・聞く」教材の 実態に合わせた指導

日々、子どもたちを教える先生方が抱えるお悩みの中から一つを取り上げ、
解決のためのアドバイスを掲載するコーナーです。
今回は、松山美重子先生と邑上裕子先生にご登場いただきます。

お悩み

「書く」「話す・聞く」の指導の際の、教科書教材の使い方が
今一つ分かりません。作例が難しかったり、話題・題材が身近
でなかったり……。児童の実態に合わせて指導するために、ど
のような使い方ができますか。



児童の実態に合った授業を行うために、
教科書にある「書くこと」教材の教材文や作例は、どのように活用するといいいのでしょうか。



愛知教育大学 講師
松山美重子

！
解決
のために

1 まずは教材文やモデル文を吟味・分析する

時間がかかる、表現様式に応じた指
導がよく分からない等の理由で、「書
くこと」の指導に苦手意識があるとい
う声を耳にします。

小学校国語の教科書には、紹介文、
説明文、報告文、新聞記事、観察記録
文、手紙、随筆など、学習指導要領で
示されたさまざまな表現様式を身につ
けさせるため、学年に応じた「書くこ
と」の教材が提示されています。そし
て、それら表現様式を明確にした教材
文や作例を示す努力がなされています。
しかし、それが児童の実態や教師の
ねらいとは異なる場合もあるはずで
す。指導にあたっては、教材文の活用
のしかたを十分に分析し、教科書教材
だけを取り上げるのではなく、モデル
文を複数を用意することで、その表現
様式の特徴を捉えさせることが大切で
す。さらに、どのような「書く能力」
を育てるのか、どれぐらいの文字数・
構成を目指すのか、記述力に関わる
ことや編集をどうするのか等も考
慮して、教師が

モデル文を作成することが必要で
す。具体的な教材を挙げてみましょう。

随筆を書く（六年）

多様な表現様式を学習するという観
点から、この「随筆を書く」という言
語活動が新たに加わりました。教科書
では、六年生の児童が随筆とは何かを
知り、どのように書くのかを学ぶこと
ができるよう、二つのモデル文を提示
しています。

これを読んで、児童とともに考える
ことはなんでしょうか。

- ・どんな題材を取り上げているか
 - ・その題材の何を切り取っているか
 - ・文字数、構成はどのようなか
 - ・心ひかれる・使いたい表現はどこか
- 等、自分が随筆を書くという立場で、
児童にたくさん気づかせ、ワークシ
ートに書き出させてみてください。
- さらに、教師自身が随筆を書くポ
イントを整理し、自分で随筆を書いてみ

ることをお勧めします。きっと、多
くの発見があるはずです。

この絵、私はこう見る（六年）

物語、映画、絵画などの作品のみ
どころやすばらしさを伝える文章を
書くことを学習する教材です。

教材文では、「風神雷神図」について、
作品を見る視点、受け止めたことを表
す表現、具体的な記述例が示されてい
ます。が、作品評の全体モデル文は載
っていません。指導の際、児童に学習
の課題や流れ、書く内容の全体を捉え
させるためにも、全体モデル文が必要
だという声もあります。

こんな場合、教師が、文字数、構成、
記述を十分に吟味したモデル文を作成
するようにしましょう。直前の单元
『鳥獣戯画』を読む」が書くことに生
かされることを実感でき、目的的に教
材文を読むうえでも有効となります。

まつやま
みえこ
松山美重子

愛知県生まれ。愛知県教育委員会義務教育指導主事、豊田市の公立小学校校長を歴任し、現職。三河教育研究会国語部会長や愛知県女性校長会会長を務めるなど、
精力的に活動し、その授業実践には定評がある。著書に「こころの力を身につけるための体験ワーク」(共著・明治図書)などがある。

その悩み、
解決します！

2 「書く」「話す・聞く」教材の
実態に合わせた指導

では、「話す・聞く」教材を、学校や児童の実態に合わせて指導するには、どのようなことを意識する必要があるのでしょうか。



新宿区立落合第四小学校 校長
邑上裕子

！解決のために

2 教科書教材に果敢に踏み込む

「話すこと・聞くこと」は、音声言語によってやり取りされる言語活動です。ですから、授業においては、「教科書の文字を読ませるのではなく、どの子にも音声を使って学習できるようにすること」が重要となります。つまり、発表や話し合いのモデルとなる音声を自分の耳で聞いて大切なことを押さえ、実際に自分で音声言語を使うことによって学ぶ必要があるのです。

そのように考えていくと、文字言語が用いられ、理想的なモデル例が示された教科書教材だけでは、十分な「話すこと・聞くこと」の指導するのは難しいといえるかもしれません。それを補うためには、教科書教材を、ある

程度アレンジして扱うことを念頭に入れる必要があります。では、具体的にどのような工夫のしかたが考えられるのか、教科書にある「話すこと・聞くこと」単元の一つ、「わたしたちの学校行事」（三年上P108）を例に取りながら、そのポイントを確認していきましょう。

目的意識・相手意識を身近から発掘する

教科書では、地域の人たち（相手）に学校行事について説明し、学校についてよく知ってもらう（目的）という学習活動が提示されています。ここで

今、目の前にいる児童をよく見てみましょう。音声言語は、生活に密着した言語です。教科書の例をもとにして、クラスの児童の興味・関心、実態に応じた相手や目的を想定し、話題・題材を設定することが大切です。

例えば、地域の人と交流する場が身近でない実態がある場合には、「一年生に学校行事を紹介する」「幼稚園や保育園の子どもたちに学校を案内する」などといったように相手を案内することが考えられるでしょう。児童の置かれた状況を捉え、他教科、学校行事や総合的な学習の時間に体験したことを洗い出して、相手・目的を、児童がより必要感をもって取り組めるものへ

と柔軟に変更することができれば、それに適した話題・題材が見えてきます。そして、それにより、相手意識や目的意識をより明確にした学習を展開することが可能となるのです。

教科書教材のモデルを作り変える

P110・111には、グループでの話し合いの様子や文字言語で示されています。話し合いの様子がほぼ全文記載されているという点では工夫が見られるのですが、実際のクラスの児童を思い浮かべながら読むとどうでしょうか。児童が日常生活で使う話し言葉とはやや離れた、丁寧な言葉遣いや、完璧なやり取りがなされているように感じられるのではないのでしょうか。ここから、言葉遣い、問の取り方、抑揚やイントネーションの入れ方といった観点で、現実の児童の話し言葉に近くなるよう、書

き換える必要があることが見えてくるでしょう。

実際に、冒頭部分を書き換えてみたものが左の例です。

〈教科書例〉

今日は、ぼくが司会をします。
まず、「子どもすもう大会」のどんなところをせつめいするかを決めます。
その後、どんなふうにせつめいするかを話し合います。

…
たしかに、そのせつめいがいいですね。

〈書き換えた例〉

今日は、ぼくが司会をするね。
ええと、まず、「子どもすもう大会」のどんなところをせつめいするかを決めようね。それから、その次にどんなふうにせつめいするかを考えよう。
…
そうだね。ぼくたちも、はじめはよく分からなかったものね。

・言葉遣いを日常の会話文に直す。
・友達の見解を共感的に聞く場面を置く。
・受けてつなげる言葉、話し始めの言葉を加える。

このような書き換えを行うことで、どの児童も話し言葉を体験し、「話すこと・聞くこと」が生きて働く場を設定することができるのです。

教科書教材に手を加えるのは骨の折れることです。しかし、より楽しくより生き生きとした実の場のある授業を行うために、「一年間に、勝負どころを一つ」という気持ちで取り組んでみましょう。

（談）



邑上裕子

東京都生まれ、小学校教諭、立川市教育委員会指導主事、東京都教職員研修センター統括指導主事等を経て、現職。前東京都小学校国語教育研究会会長。共著に「小学校国語学習指導実践事典」（東洋館出版社）、「未来に生きる話し手・聞き手を育てる「話し言葉」の学習」（光村図書出版）など。

4

説明文からつながる「書くこと」



むこと」との関連を図った「書くこと」が位置づけられています。

これまで三回にわたって、「読むこと」の基本的な教材研究の手順について述べてきました。①一人の読者として作品全体を味わう読みから、②学習の手引きを参考に、学習主体である児童の立場を想定した読み、さらに、③指導者として単元のねらいを達成させるための授業のポイントを明確にする読みという三段階で進める方法でした。

今回は、少し趣向を変え、「説明的な文章からつながる論理的な文章表現力の指導」について考えてみたいと思います。

近年、論理的な文章表現力の育成が強く求められています。小学校段階でその基礎をしっかりと身につけさせるには、「読むこと（説明的な文章）」単元とそれに続く「書くこと」小単元の意識的な指導、有効活用が必要です。

光村図書の教科書では、入門期（第一学年）を除いた各学年の十一月頃に「読

教科書の説明的な文章（説明文）は、

世にある他の読み物に比べ、内容の確かさに加えて、表現や構成の巧みさ、発達段階に応じた論理展開のみごとさなど、言葉の学習の教材とするための条件が整っています。内容はもちろん、その書きぶりにも目を向け、自分の表現に生かす学習活動につなげることは、児童の論理的な文章表現力の育成に非常に有効で

- 二年… しかけカードの作り方（読む）
おもちゃの作り方（書く）
- 三年… すがたをかえる大豆（読む）
食べ物のひみつを教えます（書く）
- 四年… アップとルーズで伝える（読む）
「仕事リーフレット」を作ろう（書く）
- 五年… 天気を予想する（読む）
グラフや表を引用して書く（書く）
- 六年… 鳥獣戯画を読む（読む）
この絵、私はこう見る（書く）

低学年

学習指導要領、低学年「読むこと」の「説明的な文章の解釈」には「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の全体を読む」、「書くこと」には「自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考える」という指導事項があります。

二年「しかけカードの作り方」の単元名は「読んで、せつめいのしかたを考えよう」。いわゆる手順書の分かりやすい説明のしかたを見つけることが学習の目当てです。完成写真が冒頭に示され、児童がゴールのイメージを明確にもつこと

ができるようになっていきます。

文章の構成は分かりやすく、「まず」「つぎに」「それから」「こんどは」「さいごに」「これで」と、順序を表す言葉、まとめる言葉が使われています。

いっぽう、続く「書くこと」小単元は、「おもちゃの作り方（分かりやすくせつめいしよう）」です。この時期の児童はまだ語彙が少なく、工程が複雑なものについては、順序の整理が困難となる場合もあります。手順を書かせるときには、絵や写真を使って構成を大枠で捉えられようにする支援が必要となりそうです。

説明文「しかけカードの作り方」での学習と、教科書P40・41の作例を踏まえると、書くときに押さえておきたい点が次のように見えてきます。

初め… 作ったものの紹介（写真）

中… 用意するもの（箇条書き）

作る順番 順序を表す言葉

手順のキーセンテンス＋写真

終わり… 作ってみての感想や遊び方

順序を表す言葉は、「しかけカードの作り方」や作例にある以外にも、「最初

に・初めに・二番目に・三番目に・さらに」などがあります。場に応じて、こうした言葉を増やしていくのは大切なことです。中・高学年にも、これらの言葉を使いきれない実態があることは、経験上、皆さん納得のいくことでしょう。既習事項として教室に掲示する、言葉のファイナルとして一人一人の児童に持たせるなどといった指導が必要です。「ここまでが低学年、ここからは中学年」という具合に区切りがあるわけではありません。繰り返し活用させたり思い出させたりすることで、言語能力は少しずつ的定着していくものであることを大事にしたいものです。

「初め・中・終わり」の構成が論理的文章の基本であることについても同様のことがいえます。「中」をどう膨らませるか、中心をどこにもってくるか、効果的な表現をどう使うかなどというように、発達に即し、学年が上がるにに応じてさまざまな言語技能が付け加わることは当然ですが、基本は「初め・中・終わり」の構成であることを繰り返し体験的に学ばせ定着させることが大切といえます。



▲2年下「おもちゃの作り方」



▲2年下「しかけカードの作り方」

第三学年の説明文「すがたをかえる大豆」は、東北大学大学院教授の国分牧衛氏、第四学年の「アップとルーズで伝える」は、アートディレクター・NHK解説委員の中谷日出氏による教科書のための書きおろし文章です。それぞれ、直後に「食べ物のおみつきを教えます（れいをあげてせつめいしよう）」と「『仕事リフレット』を作ろう（写真と文章で説明しよう）」という「書くこと」小単元が置かれています。「読むこと」で学んだことを「書くこと」で活用するには、各単元・小単元をどう捉えればよいのでしょうか。

ここで注目したいのは、説明文単元の単元名。どちらにも「説明のしかたを考える」ことが掲げられています。書かれている内容を読み取るだけではなく、「この分かりやすさには、どんな工夫があるのか」「読み手が引き付けられるのか」「どんな書きぶりからか」という観点から教材に向き合うことが児童に直接示されていること。ここがポイントでしょう。

読むための時間数は七〜八時間の設定です。詳細に読み進めるには十分な時間とはいえないかもしれませんが、だからこそ、ねらいを絞って指導する必要があります。

学習指導要領にも「目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読む」という指導事項が示されています。特に、「書くこと」に生かすという視点から捉えると、「すがたをかえる大豆」では、例が書かれている段落を中心に、その前後の段落との関係に留意しながら読むことが大切です。

さらに、「初め・中・終わり」という構成を確認し、「中」部分の五つの段落における具体的な食べ物の例の書き方に気づかせます。そして、それがなんの例なのか整理してタイトルを付けたり、順序性を考えたりさせます。また、「このように」というまとめの言葉が使われていることに気づかせ、児童にとって「書く」（表現する）ための新しい言葉の力の獲得につながるように意識づけしていきます。

いて考えをまとめる」学習が児童に示されています。

説明文の筆者は、高等学校教諭・気象予報士の武田康男氏。表・グラフ・写真・図が内容の理解を助ける文章であり、「どうして〜でしょうか」「では、〜でしょうか」「それでは、〜でしょうか」という三段階の問いかけの文と、それに対する「一つは」「もう一つの理由は」「一つの手立ては」といった理由づけの表現が効果的に用いられています。「問いと答え」や「原因と結果」など、段落相互の関係を考えながら読み進める力を身につけることは、「たんぼぼのちえ」（二年上）など、低学年から繰り返し学び続けていることの延長線上にあるものです。

この説明文の読みを受けて設定されているのが「書くこと」小単元「グラフや表を引用して書く（理由づけを明確にして説明しよう）」です。教科書P140・141では、作例に添えるように、〈グラフや表を説明するとき〉〈理由をうらづける資料〉などの内容がオレンジ色の点線囲みで示され、児童の自主学習に生かせるそうです。

アップとルーズで伝える

すがたをかえる大豆

大豆は、たんぱく質が豊富で、健康に良い食べ物です。大豆は、世界中で食べられています。大豆は、日本人の食生活に欠かせない食材です。大豆は、たんぱく質が豊富で、健康に良い食べ物です。大豆は、世界中で食べられています。大豆は、日本人の食生活に欠かせない食材です。

大豆は、たんぱく質が豊富で、健康に良い食べ物です。大豆は、世界中で食べられています。大豆は、日本人の食生活に欠かせない食材です。大豆は、たんぱく質が豊富で、健康に良い食べ物です。大豆は、世界中で食べられています。大豆は、日本人の食生活に欠かせない食材です。

▲3年下「すがたをかえる大豆」

高学年

五年を例に取って考えてみます。「説明のしかたについて考えよう」「天気予想する」では、「筆者の説明の工夫について

学習指導要領、高学年「書くこと」には「引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書く」という、記述に関する指導事項があります。本小単元では、この項目を充てた言語活動が設定されています。

つまり、直前の説明文の書きぶりが大いに参考になるのです。児童自身がそのことに気づくことができるような学習展開を意識するとなおよいかもしれません。

このように見てくると、論理的な文章表現力の育成には、「読むこと（説明文）」の意図的な活用が効果的であることが分かってきます。教科書では、それぞれの単元・小単元内に、分かりやすく説明するための工夫——オレンジ色の点線囲みや「たいせつ」にある内容——が明示されています。それらを書き抜く、サイドラインを引くなどの活動を積極的に取り入れ、児童に「書くこと」の能力を支える言葉の力を蓄積させたいものです。ここに紹介した説明文の他にも「書くこと」の能力育成を意識して教材研究してみることが勧めます。

▼5年「表やグラフを引用して書く」

表やグラフを引用して書く

表やグラフを引用して書く

▼5年「天気を予想する」

天気を予想する

天気を予想する

11 ポップを作ろう！

—用紙に対する文字の大きさと配列の工夫—

新しい指導を考える会

ノートや観察カードなど、子どもたちは日常の学習の中で、さまざまな用紙と向かい合っています。しかし、書く「内容」を吟味することはあっても、「どのよう」に表記するか」についての指導は後回しになりがちなのではないでしょうか。

そこで活用したいのが「書写」の学習。今回は、国語の読書活動と組み合わせ、文字の大きさと配列を考え、おすすめの本のポップを作る活動を提案します。

1 はじめに

用紙全体と文字の大きさ・配列の関係を考えて書くことは、文・文章という文字の集まりをどう書くかという、小学校書写の総仕上げに当たる学習内容といえます。また、長い文章を書く機会が増える中学校生活への準備としても位置づけられます。今回は、書写での学習が他教科や日常生活に生きていることを児童が実感できるように、国語と組み合わせた単元構成を試みました。五、六年ともに実践が可能です。六年を例にご紹介します。

2 指導計画と指導の実際

第一次（二時間）

「読書生活の振り返り」を導入に「国」

国語の教科書教材「本は友達」（六年P152～155）を使って、自分の読書生活の振り返りを行いました。学級全体での交流から、児童は、自分たちがさまざまなジャンルの本を借りたり、買い求めたりしていることを知りました。

国語の教科書付録「本がやって来る」（六年P238～241）を読み、自分たちがな

第二次（二時間）

ポップの秘密を探る

「自分たちのおすすめの本をポップにして紹介する」という学習活動の目的を知り、まずは教師が用意したポップなどを参考に、ポップの目的や種類、見せ方

の工夫点などを発表し合いました。

〈児童の気づき〉

- ・ポップには、紙の大きさや形など、多くの種類がある。
- ・キャッチコピーを大きく示したり、イラストを入れたりして、読みたと思えるような工夫をしている。
- ・情報によって文字の大きさを変えたり配列を工夫したりしている。

第三次（二時間）

用紙の大きさや形に応じた書き方を考える

「書」

前次の学習で気づいた「見やすさ・読みやすさ」という観点から、さまざまな紙に対応した文字の大きさと配列を押さえます。

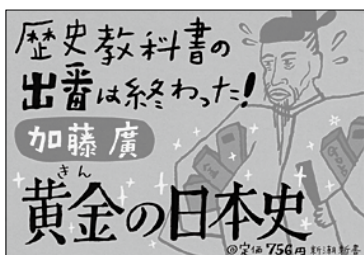
①試書

「創造」を題材に、いろいろな大きさや形式の紙に書いてみる（五年では、書写教科書P30・31「平和」「信念」を題材にするなどよい）。

文字数や紙の大きさ・形は全員でそろえたほうが、後から比較がしやすい。実態によっては、紙の大きさ、文字数、縦書き・横書きなどに変化を加えた試書を行ってもよいだろう。

用紙を変えた試書の例。

- A：半紙（縦）
- B：書き初め用紙（縦）
- C：半紙（横）
- D：色紙
- E：角が丸い書き初め用紙（横）
- F：円形の画用紙



出版社が作成し、書店や一般向けに提供しているポップなどを例として提示した（画像提供：新潮社）。



創造

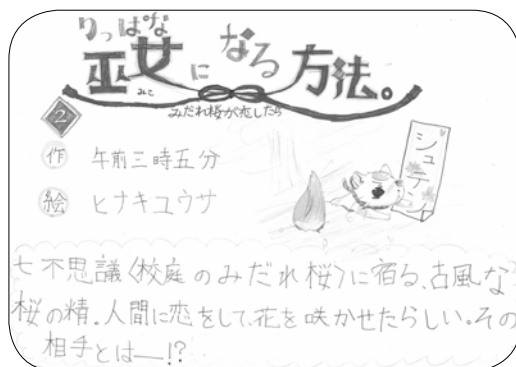
創造

創造

創造

創造

創造



完成したポップ。用紙に対する文字の大きさや配列（行の中心、行間、余白など）が意識されている。

紙面を効果的に使い、イラストを入れ
たり色を付けたりする際には、必ずしも
文章の行頭をそろえなくてもよい場合が
出てくる。特に、ポップは、デザインの
要素が加わるため、書き文字も楷書にこ
だわらず、多様なレイアウトが考えられ
ることを念頭に置いておきたい。

②制作

①の下書きをもとに制作を行う。文字
の大きさや配列などに加え、書く内容に
応じて筆記具を工夫させてもよい。

② 制作

①の下書きをもとに制作を行う。文字の大きさや配列などに加え、書く内容に応じて筆記具を工夫させてもよい。

②工夫・改善点の検討

試書を持ち寄り、気づいた工夫点や改善点を発表し合う。

★書写シート◆		★文学の大きさと配列を確かめよう	
試書したものは		結果	名前
半紙 (横)	書き初めの用紙 (縦)	下の余分があまふしまだ紙の裏まで書いた方がすばらしい。小筆を欲うたとて書ける。	工夫あることろ 名前をうけることろ をうけることろは少し少なくて書ける。 (余白)
色紙	角が丸い書き初めの用紙 (横)	「文字をいれるむづかしいところを平べたくなてしまふ。」 「文字をいれるがむづかしいところを平べたくなてしまふ。」 「文字をいれるがむづかしいところを平べたくなてしまふ。」	大さき書くのなら文字向かい 小筆ならたさん書ける。横書きもできる。 「真ん中に書くのはよく見える。」 「紙が長いのや、まのうらやうに書けるのやうに。」 「真ん中に文字をかいて、周りにいろいろな文字や絵をいれると、楽しくする。」
円形の画用紙		「文字がロムリ、正方形と同じ。」	

文学の大きさを考えで書く。

余白を考える。(文字と文字の間、行と行の間を考える。)

「書写シート」を使って、自分の試書を振り返り、工夫点・改善点を考える。

見直しやすいよう「書写シート」を用いた。「用紙に対する文字の大きさと配列」を考えるための試書である。筆使いや組み立てといった、文字単体の書き方の観点まで含めると、単元の目標から外れてしまうので注意が必要である。

〈児童から出された工夫したいこと〉

- ・ 用紙に対する文字の大きさ
- ・ 配列
- ・ 行の中心
- ・ 字間や行間
- ・ 余白

第四次
(三時間)

ポップの制作

—書写の学習を生かして

[玉][十][書]

自分のおすめの本を選定し、それを紹介するポップを制作します。キャッチコピーや本文の引用、イラストなど、ポップに盛り込む内容は、国語の時間を使って考えさせます。

授業時間は、制作過程によって、国語と書写でうまく振り分けると、効率よく進めることができます。

- ・ 内容に関わること↓国語で扱う
- ・ 様式に関わること↓書写で扱う

3
まとめ

今回は、ポップの内容（言葉や表現の吟味など）は国語で、様式に関わることは書写で扱うというように、国語の学習と連携させて、文字の大きさや配列の工夫を学ぶ書写の学習を組み立てました。

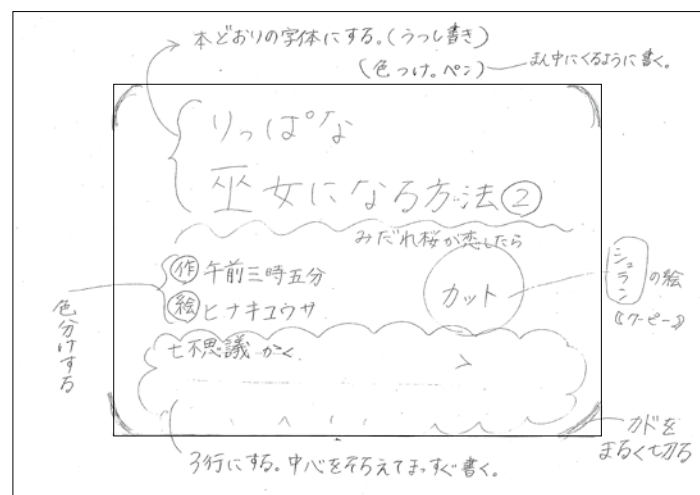
單元全体の時間を七時間程度としましたが、書写（様式）だけ扱いたいというときには、国語の教科書「この本、読もう―本は友達」（六年P 218～223）にある本の紹介文を利用して学習を進めることもできるでしょう。

書写では、整えて文字を書くための原理や原則を学びます。その中には、配列による印象や効果の違いなど、書くためのポイントを学ぶことも含まれると考えます。

書写が日常の学習や生活に密接に結び付いていることが、より子どもたちの目に見えるように教材化するのは重要なことです。そのために、国語の教材と関連させて単元を構成したり、他教科の書く活動の中で、積極的に書写の学習を想起させる手立てを組んだりすることが必要となるでしょう。時には、他教科の学習の際に、書写の教科書を引つ張り出し、

① 下書き

実際に制作するときと同じ大きさの紙に下書きをする。上に示した「書写シート」をもとに、書写で学習した文字の大きさを配列、余白の取り方などを生かしながら取り組むようにする。



下書き。下書きした紙をA4用紙に貼り、書くときに気をつけるべき点などを書き込む。

学習したことを再確認してから、書く活動に入るということもあってよいのではないだろうか。

文字は「書く」ものから「打つ」ものへと、社会の意識が変わりつつあります。しかし、文字の大きさや配列を意識して、読みやすく表す能力は、コンピュータで文書を作る場合においても同様に求められるといえます。これはいわば、効果的な文書作りのための「書式設定（レイアウト）」の能力です。今回の学習のように、自分たちの文字を通してレイアウトすることを体験し、感覚を磨いていくことで、将来的な社会生活への「のりしろ」もでき、これからの時代に対応できる書写学習に発展させていけるものと考えます。

研究会のご案内

第54回 福岡県小学校国語教育研究大会
第16回 北九州市小学校国語教育研究大会

開催日 平成24年11月15日（木）
会 場 北九州市立折尾西小学校
テーマ 生きて働く「ことば」の力を育てる国語科学習指導
－言語活動の充実と評価の工夫－
内 容 基調提案／公開授業（9学級）／領域別分科会／講演
基調提案：北九州国語教育研究会研究部長 大川内英樹氏
講 演：文部科学省教科調査官 水戸部修治氏
連絡先 北九州市立折尾西小学校
〒807-0862 福岡県北九州市八幡西区西折尾町15-1
TEL：093-602-2631 FAX：093-602-2632

第41回 全国小学校国語教育研究大会 京都大会
第58回 全国国語教育研究大会

開催日 平成24年11月29日（木）・30日（金）
会 場 京都市総合教育センター・京都市立明德小学校・京都市立錦林小学校
テーマ 言語活動を通して豊かに学ぶ子
内 容 （1日目）理事会／総会／全体会／基調提案／特別講演
特別講演：文部科学省教科調査官 水戸部修治氏
（2日目）オリエンテーション／公開授業／研究協議会／記念講演
公開授業：明德小学校（19学級）・錦林小学校（16学級）
記念講演（明德小学校）：作家 工藤直子氏
記念講演（錦林小学校）：文部科学省教科調査官 水戸部修治氏

資料代 4,000円
連絡先 京都市立錦林小学校
〒606-8322 京都府京都市左京区岡崎入江町1-1
TEL：075-771-0921 FAX：075-771-3622

その他の研究会情報については、光村図書ウェブサイト内、「全国研究会情報」のページでご覧いただけます。
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp/Data/Kenkyu/>

平成24年度用教科書（下巻） 訂正箇所のお知らせ

平成24年度用1～4年下巻教科書では、平成23年度から以下の箇所を訂正しております。校内の先生方でご確認のうえ、ご指導の際には十分ご注意くださいよう、お願いいたします。

学年	ページ	行	23年度	24年度
1年	132	4段目	立 たつ いすから 立つ	立 たてる ぼうを 立てる
3年	47	挿絵上部		三日月の左側の星を削除。
	53	下段②挿絵		三日月の左側の星を削除。
	113	表内1段目 19-20	「どんなことをするのか」	「どんなことをする」
	113	表内2段目 11-12	むすび	むすびのあいさつ
4年	134	下段吹き出し	あらざらむ	あらざら ^(L) む
	40	上段作例9	二日休みます。	一日か二日休みます。
	98	上3	家族の人	家の人
	124	「森の地図」 紹介文3	目指して	目 ^レ ざして
	126	下3語注	味をみよう	味を見よう
	132	上13	左手	左手
	132	下1	左手	左手
	132	下段挿絵		本文の修正に伴い、変更。

なお、小誌76号でもお知らせしましたように、「常用漢字表」改定に伴い、小社では、平成24年度用教科書より、以下の表の「提出箇所」以降で教材本文の表記を改めております。ご指導の際にはご注意ください。詳細につきましては、小誌76号および小社ウェブサイト「光村チャンネル」をご確認くださいよう、お願いいたします。

学年	漢字	追加音訓	提出箇所	学年	漢字	追加音訓	提出箇所
1	中	ジュウ	2年上38ページ	4	側	がわ※	4年下109ページ
3	委	ゆだねる	3年下41ページ	4	要	かなめ	4年上46ページ
3	育	はぐくむ	3年上115ページ	4	類	たぐい	4年上27ページ
3	館	やかた	3年上36ページ	5	応	こたえる	5年35ページ
3	全	すべて	3年上59ページ	5	混	こむ	5年100ページ
3	速	はやまる	3年下97ページ	5	務	つとまる	5年187ページ
3	他	ほか	3年下110ページ	6	私	わたし	6年101ページ
3	放	ほうる	3年下86ページ	6	創	つくる	6年42ページ
4	関	かかわる	4年上27ページ	真面目	まじめ		4年下51ページ

※「側」は、「かわ」から「がわ」への訓の変更です。